下水道事業における
地球温暖化防止計画

「アースプラン2004」

～快適な地球環境を次世代に～

東京都下水道局

「アースプラン 2004」の策定にあたって

地球は、銀河系の中で、水や緑、人類などの存在が確認されている唯一の惑星です。しかし、今、この惑星が危機に瀕しています。

現在の私たちは、豊かさや快適性などを求め、石炭や石油など、多くの化石燃料を消費するようになってきています。これにより、二酸化炭素や一酸化二窒素などの温室効果ガスが短期間のうちに増加した結果、地球を包んでいる大気のバランスがくずれ出し、気候や生態系などが変調をきたす地球温暖化現象を招いています。

この人類共通の課題である地球温暖化防止のためには、世界中の人々が共通認識を持って、温室効果ガスの削減に向けた取組みをしていく必要があります。我が国は、京都議定書に基づき温室効果ガスの排出量を１９９０年比で６％削減することを国際的に約束しました。この目標達成のため、企業活動においても個人生活においても、可能な限りの対応を図っていく必要があります。

東京を含む首都圏の人口は 3,300 万人に達しており、世界有数の規模となっています。この社会経済活動などを支えるために、大量のエネルギーが消費され、それに伴う温室効果ガス排出量は膨大なものです。このため、世界の他都市に率先して地球温暖化防止に積極的に取り組むことが求められています。

下水道事業は、汚水の排除、処理や合流式下水道の改善などによる衛生的で快適な生活環境や水環境の創出、雨水対策事業による浸水被害の軽減など、安全な都市環境の創出などに大きく寄与してきましたが、その一方で、大量のエネルギーを消費しています。都内で使用される電力の約 1％を消費する最大の消費者となっています。また、東京都の事務事業活動で排出される温室効果ガスの４３％を下水道事業が排出しており、地球温暖化防止に対する大きな責任を負っています。

このため、下水道事業においては、これまでも効率的な事業運営や省資源・省エネルギーを実現するため、電力などの使用エネルギーの節減や汚泥のリサイクルなどを進めてきました。

近年、公共用水域の水質向上が強く求められており、合流式下水道の改善や高度処理の推進などをより一層行っていく必要があります。これに伴い、温室効果ガスの排出量もさらに、増加することが見込まれていることから、これまで以上に、地球温暖化防止へ向けた取組みを強化する必要があります。

このことから、本年２月に策定した、東京都区部下水道事業「経営計画2004」では、「地球環境への貢献」を主要施策の一つに位置づけ、下水道事業における喫緊の課題として、地球温暖化防止対策を総合的に進めることとしたところです。

この「経営計画 2004」に基づき、このたび、下水道事業における地球温暖化防止計画「アースプラン 2004」を策定しました。本プランでは、新技術を導入した再生可能エネルギーの活用などに加え、民間との連携などの創意工夫を図ることにより、2009 年度までに、下水道事業から排出される温室効果ガスを 1990 年度比で 6%以上削減することにしています。

持続可能な社会を構築し、快適な地球環境を次世代に継承するため、日常の業務・運転管理における省資源・省エネルギーの取組みを徹底していくとともに、新たな発想や新技術を積極的に導入するなど、様々な対策を総合的に推進していきます。地球温暖化防止のために局職員が一丸となって取り組んでまいりますので、今後とも、都民のみなさまのご理解・ご協力をお願いいたします。

平成 16 年９月

東京都下水道局長　二村 保宏

目　　次

第１章　プラン策定の基本的考え方　・・・・・・・・・１

１　策定の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
２　基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
３　策定のポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

第２章　現状と取組状況　・・・・・・・・・・・・・・・11

１　下水道事業の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
２　温室効果ガスの排出量・・・・・・・・・・・・・・・・14
３　これまでの取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

第３章　温室効果ガスの削減　・・・・・・・・・・・・・19

１　下水処理により発生する温室効果ガスの削減・・・・・21
２　温室効果ガスの少ない資源・エネルギーへの転換・・・26

第４章　プランの着実な推進に向けて・・・・・・・・33

１　関係機関等との連携　・・・・・・・・・・・・・・・・34
２　お客さまへのＰＲ　・・・・・・・・・・・・・・・・・39